

都市部における生き物の棲み処づくりに向けた試み



沿岸海洋研究部

海洋環境研究室 研究官 梅山 崇 室長 古川 恵太 主任研究官 岡田 知也

(キーワード) 自然再生、市民協働、沿岸域

1. はじめに

自然環境の劣化が著しい都市臨海部において、経済的な発展と自然環境の保全を両立していくために、海辺の自然再生への取り組みが活発化してきている。また、自然と共生する社会の実現に向けた取り組みを将来に続くものとするために、自然再生に対する地域住民の積極的な参加、およびそれを支援する枠組みおよびメニュー作りが求められている。そこで、市民・行政・研究者の協働による自然再生の試みとして、東京都、東京都港区および当研究室が協力し、芝浦アイランド護岸に造成された潮溜まりにおいて“生き物の棲み処づくりプロジェクト”を実施している。

2. 市民協働の調査メニュー

参加者が楽しみながら、自然と触れ合い、自然環境を学ぶことができる調査メニューを、当研究室が中心となって作成した。例えば、潮だまり内の魚、カニ、エビ等の生物量調査(写真-1)を、市民参加型とした。参加者の安全、および子供達が網や手掴みで容易に生物を捕まえこと



写真-1 市民参加型の生物量調査の様子

ように、調査時には潮だまりを干上げた状態とした。この様に調査形態のほんの少しの工夫、調査指導員として専門家の協力があれば、子供達であっても調査に主体的に参加できることが示された。

現場での体験を、自然環境の理解へ有機的に結びつける為には、座学は重要である。ただ座学と言っても、一方的な講義では、子供達の興味は惹かない。本プロジェクトでは、粘土を用いて干潟造成過程を学ぶ体験型の講義、折り紙や粘土を用いた海洋生物の作成等の楽しめるオリジナルの環境学習メニューを作成した(図-1)。

このような市民参加型の調査および座学は、身近な環境に対して市民が興味を持つきっかけとして効果的であることが判った。

3. 今後に向けて

本プロジェクトの目標である「住民により作り育てる水際環境」の実現に向け、住民による潮溜まりの管理運営のきっかけ作りができた。今後、同様の取り組みを全国に広げる為、市民協働の調査・環境学習のメニューの充実を図っていきたい。

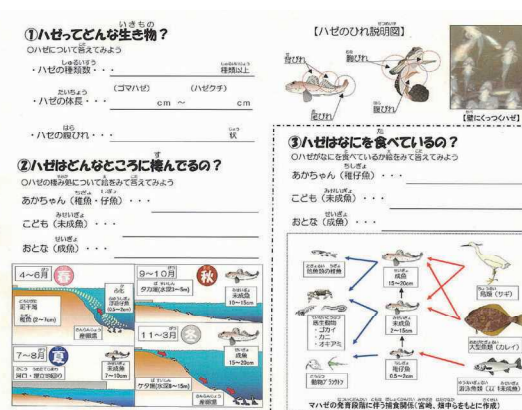


図-1 座学の教材例